公益財団法人　国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

# 中国軍事動向月報

２０２６年４月

JINF
Japan Institute
for National Fundamentals

# 目　　次


1　全　般　・・・3

2　各軍等　・・・4

3　対台湾動向　・・・6

4　対日動向　・・・9

5　国境地域動向　・・・17

6　軍事交流　・・・19

参考文献　・・・21

# 中国軍事動向月報：2026 年 4 月

２０２６．５．８
国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

## 1　全　般

4 月は国境周辺地域において、日米比 NZ 等の活動に対し、威嚇・牽制をする活動が多く見られた。特に、米比主催多国間共同訓練バリカタン 26 に強く反発し、南部戦区が南シナ海での演習を公表した。

台湾に対しては、台湾周辺における軍用機の活動は低調であったが、艦艇・公務船は平年並みの活動が継続された。中国が 3 月 27 日～5 月 6 日にかけて、黄海から東シナ海にかけて大規模な NOTAM を設定した事、4 月 18 日に初の東シナ海統合戦備パトロールを実施した事等から、その活動空域を台湾海峡から黄海・東シナ海に拡大し、同空域での日本・在日在韓米軍に対する情報収集等に焦点を移行させた可能性も考えられる。

日本に対しては　海自艦艇の台湾海峡通過に強く反発し、批判記事を急増させ、東シナ海統合戦備パトロールや海軍艦艇の西太平洋進出や等で牽制した。

また、尖閣周辺においては、日本の EEZ 内における中国の海洋調査船の活動が活発となった。中国は本年から開始される第 15 次五カ年計画の国防関連目標において、「党・政府・軍・警察・民間が協力した海空国境防衛を強化する。」と明示し、海上国境において、軍・海警・民兵・海洋調査機関・企業等が一体で対応を強化することを企図している。この方針に従って、中国が一方的に領有権を主張する尖閣諸島周辺においても、海洋調査船の活動を活発化させている可能性がある。

## 2　各軍等

### （1）全般

#### ○　全軍高級幹部研修課程開講式[1]

4 月 8 日、国防大学で全軍高級幹部研修課程開講式が挙行され、習近平中央軍委主席が出席し、重要講話を行った。習主席は講話において「思想の正統化と政治教育の深化を図り、政治思想の優れた新たな軍として、建軍百周年を迎えねばならない」と強調した。

開講式は張升民中央軍委副主席が主催し、第一期全軍高級幹部研修課程学生の他、在北京の主要幹部が参加、更にオンラインで全軍軍級以上の部隊が視聴した。

【コメント】

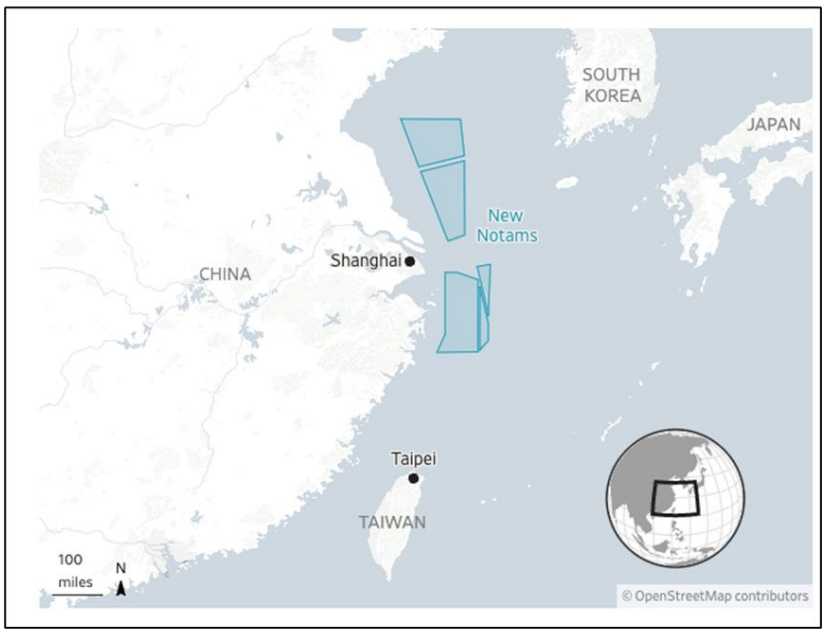
第 1 期とされていることから、本年から高級幹部を対象に政治教育を主とした課程を国防大学で開講したと見られる。報道では、董軍国防相を初め、上将や中将・少将が前列に、上級大佐が後列に着座していた。学生は上級大佐が主力も、参加可能な少将以上の幹部は集められたと見られる。更に軍級以上の部隊がオンライン参加であることから、全軍の将級幹部に改めて党の支配と習近平への忠誠を徹底する企図であった可能性がある。

#### ○　黄海・東シナ海における NOTAM の設定

米連邦航空局によると、中国は 3 月 27 日～5 月 6 日にかけて、黄海から東シナ海にかけて NOTAM （notice to air missions）を設定した。同 NOTAM は垂直方向に制限のない SFC-UNL (surface unlimited)[2]。

これに関し、4 月 30 日の国防部定例記者会見で「日本に対する大きな動きではないか」と質問された報道官は、「中国の軍事訓練を行う上での必要な措置であり、合理的合法的で、透明性を確保し公開もしている。騒ぎ立てて深読みするべきではない」と述べた[3]。

WSJが報じたNOTAMの位置




（出典：WSJ20260406）

## （２）統合訓練

### 東部戦区の軍種間の指揮移管要領の一例

解放軍報2026年4月19日版「陸軍ヘリ、三軍によるリレー指揮」の記事において、東部戦区の軍種間の指揮移管要領について以下のように報道

**陸軍航空旅団と海空軍間の指揮移管要領**

○ 離着陸時は陸軍、中・長距離飛行間は空軍が指揮
  ◇ 陸軍航空旅団のヘリ編隊が、当部隊飛行指揮官の命令により、離陸
  ◇ 一定の高度に到達後、陸の飛行指揮官が空軍指揮官に指揮権の移行を通知
○ 海上目標捜索時は空軍に移管された指揮権が更に海軍艦艇に移管され、艦艇からの目標情報に従い、捜索・標定

**陸海空軍の統合指揮への処置**

○ 通信周波数・専門用語・使用地図・座標標記の統一
○ 三軍共通の電子地図により状況認識をリアルタイムで共有
○ 東部戦区内の数十カ所の軍飛行場は全軍種が使用可能

当該陸航空旅団の飛行訓練

（出典：解放軍報20260419）

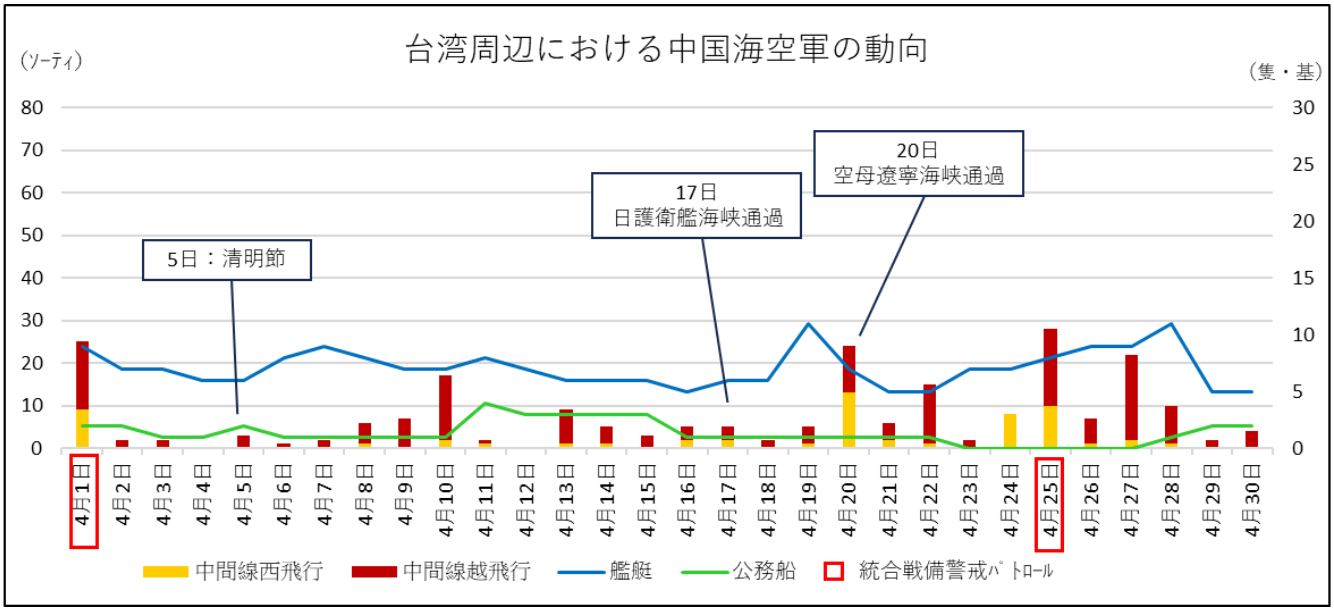
○ 報道は指揮移管の一例ではあるが、作戦形態により最適な統合指揮系統が選択できるよう、要領を逐次研究・改善し、システム面の整備も進んでいる可能性

○ 東部戦区は台湾侵攻主担当戦区であり、大規模な統合演習のみならず、日常的な訓練でも統合訓練が常態化している可能性

## 3　対台湾動向

### （1） 台湾周辺での軍の活動状況

○　中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向




（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

4 月は中国軍機延べソーティー229（内、中間線超えが延べ 171）、中国艦艇延べ 213 隻、公務船延べ 41 隻が確認。

1 日における軍用機最大確認数は 28 ソーティー、最大中間線超え 18 ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは 2 回であった。

4 月 17 日、東部戦区報道官は、「4 月 17 日 0402～1750、日本の護衛艦いかづちが台湾海峡を通過し、台湾独立分離主義勢力に誤ったメッセージを送った。東部戦区は、海空軍兵力により、全航程を警戒・監視し、統制を行った。」と公表[4]。

4 月 20 日、台湾国防部は中国海軍空母「遼寧」が台湾海峡通過したと公表した[5]。

中国軍無人機の撮影した「いかづち」

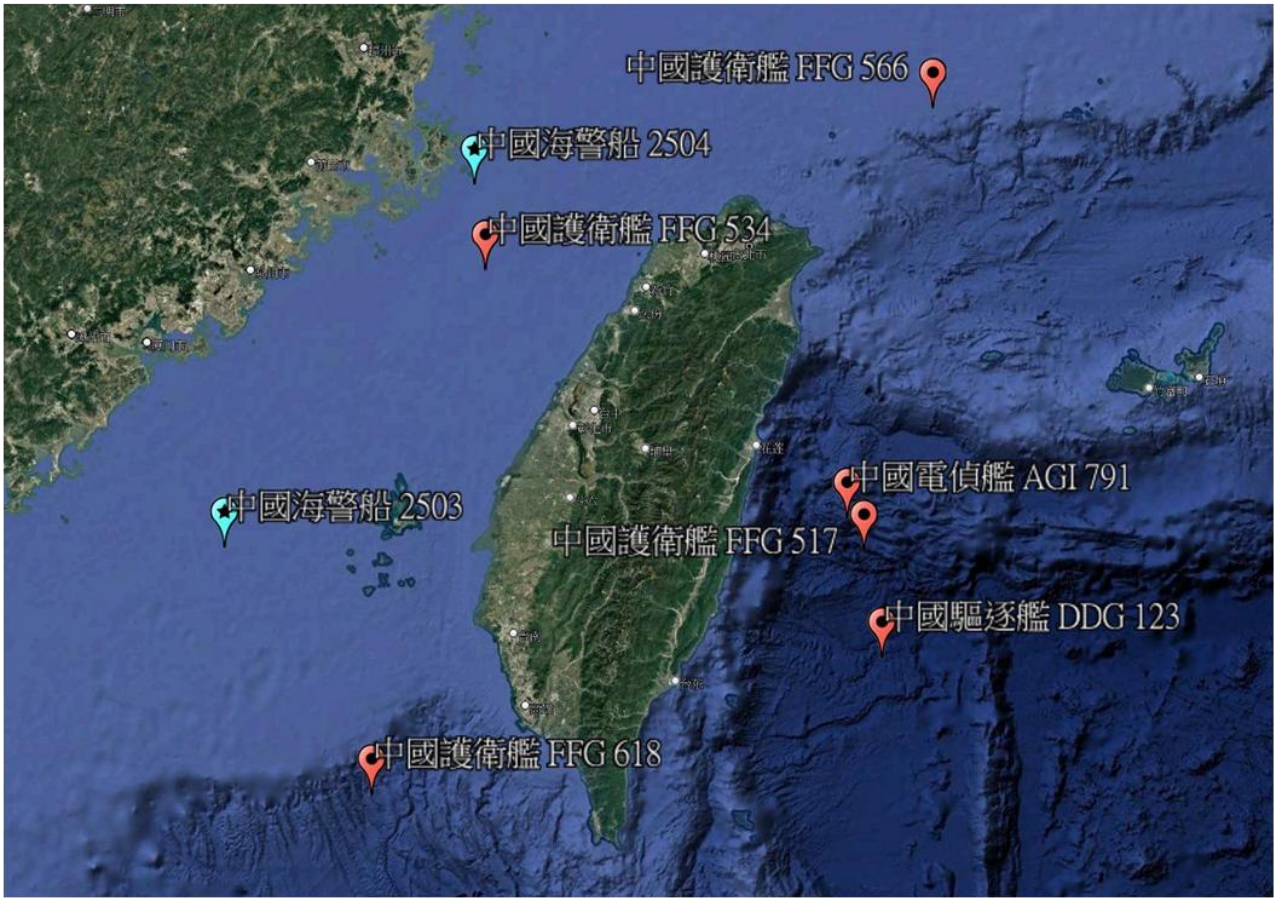
中国側が報道した「いかづち」の航路

（出典：環球網20260418）

○　台湾海洋委員会主任による中国艦艇等の位置の公表

4 月 6 日 19 時台、台湾海洋委員会の管碧玲・主任は自身の Facebook で「本日の海上情勢」として、中国艦船等の動向を示す地図を投稿し、「鄭国民党主席の訪中前夜にも、中国は台湾を取り囲んでいる。中国は平和の気配も見せないのに、籠の中に閉じ込められた国民党は今回の訪中で平和になり、台湾の人々に寝そべり族になっても大丈夫と主張しているのだ」と主張し、中国の台湾周辺での威圧的な動向について説明した[6]。

管海洋委員会主任の投稿した4月6日の中国艦艇・海警船の位置




（出典：管碧玲FB　20260406）

### （２） 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 4 月の台湾制限水域への入域は 21 日[7]、24 日[8]の 2 回で、いずれも 4 隻で約 2 時間の入域であった。

一方、中国海警東海分局報道官は 4 月 24 日に「4 月 24 日、福建海警は金門付近海域において法に基づく定例法執行パトロールを実施」と公表した[9]。

### （３）東沙周辺海域での動向

4 月 21 日、台湾海巡署が交通部・国防部等と太平島海域で海難救助や海洋汚染物質の除去などを含む「南援 9 号」統合演習を実施したが、中国側の妨害等は報道されなかった。

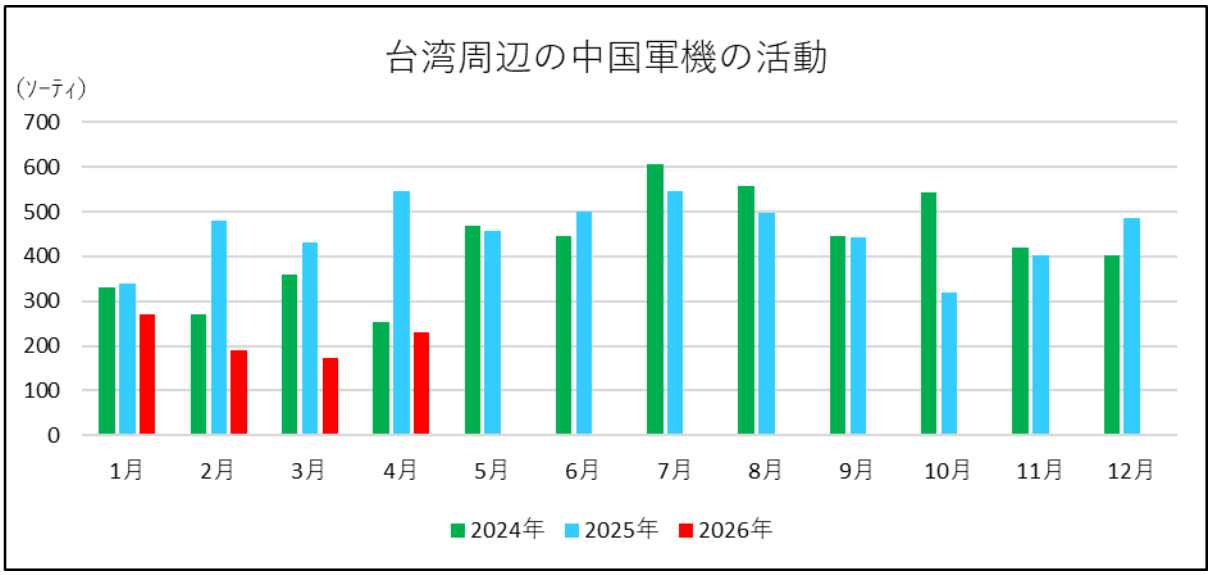
【コメント】

台湾周辺における軍用機の活動は下表に示す通り、4 月も低調であった。海空協同戦備パトロールも 3 月と同様に 2 回であり、参加機種も 1 月まで確認された H-6K は確認されなかった。

一方、艦艇・公務船は管・台湾海洋委員会主任が公表したように台湾周辺での活動を継続しており、隻数も例年と同様であることから、一部報道にあるように指揮系統の混乱やイラン戦争による燃料不足とは考えにくい。

中国は 3 月 27 日～5 月 6 日にかけて、黄海から東シナ海にかけて大規模な NOTAM を設定した。これまでの活発な台湾周辺空域での活動により、台湾側の防空機材・防空体制等の情報収集を行い、統合演習等で対応要領も演練したことから、その活動空域を黄海・東シナ海に拡大し、同空域での日本・在日在韓米軍に対する情報収集等に焦点を移行させた可能性も考えられる。

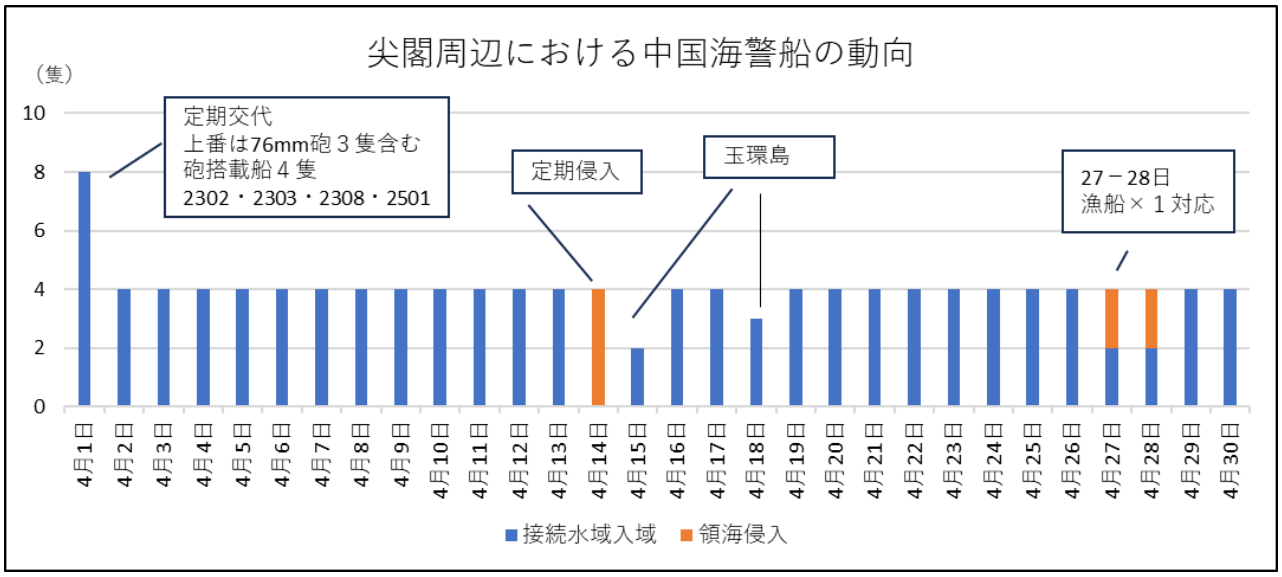
4 月 18 日には、東部戦区報道官は、「4 月 18 日、東部戦区は東シナ海の関連海域において、海空兵力による統合戦備パトロールを実施した。これは年度計画によるもので、部隊の統合作戦能力を検証するものである。」と公表した[10]。これは、海自艦艇の台湾海峡通過に対抗したものであるが、東シナ海における統合戦備パトロールの公表は初である。今後、東シナ海統合戦備パトロールを常態化する準備の為、台湾周辺における軍用機の活動を抑制している可能性もあり、注意が必要である。



## 4　対日動向

### （１） 尖閣諸島周辺での活動状況

#### ○　海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向




（資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成）

4 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。

定期交代は 1 日であり、海警 2308（ZHAOKAI WPS、 054A 仕様）は尖閣接続水域内で初確認である。

定期侵入は 14 日で、月 1 回と変化はなかった。

4 月 28 日、中国海警局は「4 月 28 日、日本漁船『鶴丸』が中国釣魚島（原文ママ）領海に侵入、中国海警は法に基づき警告・駆逐のための必要な措置を講じた」と公表[11]。日本漁船 1 隻に対し、海警船 2 隻での対応と変化はなかった。

#### ○　尖閣周辺での中国海洋調査船の活動

第 11 管区海上保安本部によると、4 月 18 日午前 7 時 13 分ごろ、尖閣諸島の久場島の北北西、およそ 106 キロの日本の EEZ 内で、中国の海洋調査船「向陽紅 18」が海中にワイヤーのようなものをのばしているのを警戒中の巡視船が確認。日本の同意を得ていない調査活動は認められないとして巡視船から無線で中止を求めると調査船から応答があり、確認されてから、およそ 6 時間後の午後 1 時 8 分ごろ、日本と中国の「地理的中間線」を越えて離れた[12]。

また、4 月 29 日午前 8 時 35 分ごろにも、尖閣諸島の魚釣島の西北西およそ 63 キロの日本の EEZ 内で、中国の海洋調査船「向陽紅 22」が海中にパイプのようなものをのばしているのを警戒中の巡視船が確認。巡視船は、日本の同意を得ていない調査活動は認められないとして、無線で中止を求めたが、海洋調査船からの応答はなし[13]。5 月 2 日に EEZ 外にでたものの、5 月 5 日に再び EEZ 内での活動が確認された。

## ○　尖閣付近における中国海警の台湾漁船への対応

◇　中国側公表[14]

4 月 17 日、中国海警は「4 月 16 日、中国台湾籍（筆者注：原文ママ）の 7 人乗り漁船 1 隻が黄尾礁（筆者注：原文ママ、久場島）北東約 76 ｶｲﾘで火災発生。パトロール中の海警船が消火救出活動を実施中であり、現在まで 6 人を救助。」と公表。

◇　台湾海巡署公表[15]

4 月 17 日、台湾海巡署は「基隆籍の漁船『全漁 6 号』が 16 日早朝、釣魚台（筆者注：原文ママ）北東約 77 ｶｲﾘ（日本の捜索救助責任区内）で出火沈没した。外国籍の船員 6 名は付近で操業していた台湾漁船『全漁 36 号』によって直ちに救助された。海巡署は通報を受け、直ちに巡視船を現場に派遣し、日本の海上保安庁と連携してパトロール機・船を派遣し、日本と協力して行方不明の船長を捜索している。中国は海難事故を利用し、『中国台湾籍漁船』の文言を使用し、わが国の主権を侵犯すべきでない」と公表。

◇　日本側報道[16]

第 11 管区海上保安本部によると、4 月 16 日午前 7 時半ごろ、「石垣島北約 143 海里で台湾漁船に火災が発生した」と、台湾の救助機関から連絡があり、巡視船と航空機を出して船長を捜索している。

【コメント】

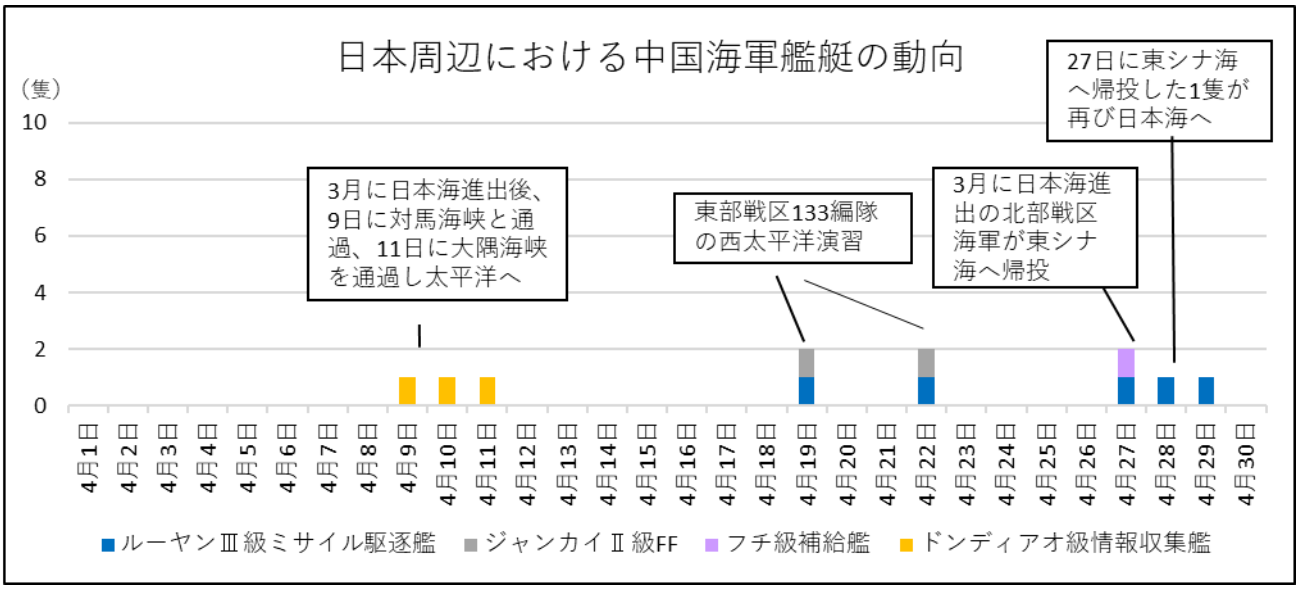
海上保安本部によると、日本の EEZ 内における中国の海洋調査船の活動はこのところ相次いで確認されており、3 月 30 日以降では 4 例目。

中国は本年から開始される第 15 次五カ年計画の国防関連目標において、「党・政府・軍・警察・民間が協力した海空国境防衛を強化する。」と明示している。これは海上国境において、軍・海警・民兵・海洋調査機関・企業等が一体で対応を強化することを意味しており、この方針に従って、中国が一方的に領有権を主張する尖閣諸島周辺においても、海洋調査船の活動を活発化させている。

一方で、台湾漁船への対応について、船員 6 名を救助したのは台湾漁船であり、その後海巡署の巡視船で台湾へ帰投しているにも拘わらず、海警船が救助したと主張している。これは尖閣周辺の日本 EEZ 内で実際に有効的に活動しているのは日本海上保安庁であるという事実を中国国内及び台湾に広まることを恐れた処置であった可能性がある。

## （２）日本周辺での軍の活動状況

### ○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向




（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 11 隻の活動が確認された

4 月 19 日、東部戦区報道官は「4 月 19 日、東部戦区 133 艦編隊が横当水道を通過し、西太平洋海域で演習を行い、部隊の遠海作戦能力を検証する」と公表[17]。

4 月 22 日、東部戦区報道官は「4 月 22 日、東部戦区 133 艦編隊は西太平洋での演習を終了し、与那国・西表水道を通過して帰還し、部隊の遠海作戦能力を検証した。」と公表[18]。

【コメント】

東部戦区 133 艦編隊が西太平洋で演習を行ったと公表されたが、補給艦も随伴せず、2 隻のみの短期の活動であったことから、17 日に海自艦艇が台湾海峡通過した事への牽制である。

実質的な訓練はなかったと思われるが、22 日に与那国・西表間を通過した同日、約 3 時間前に同じく与那国・西表間を露海軍ステレグシチー級フリゲート 2 隻及びドゥブナ級補給艦の計 3 隻が通過し、23 日に対馬海峡を通過して日本海に航行した。同露艦艇は 2 月 16 日に与那国・西表間を通過し、4 月 15 日から南部戦区海軍の湛江軍港に寄港していた。露への帰投の際、同様のルートを使用したものであるが、中国側が調整を行い、中国艦艇と同日に同海域を通航した可能性があり、中露軍事協力の一環と見ることができる。

3 月 29 日以降、日本海に進出していた北部戦区海軍の艦艇 5 隻の内、3 隻が東シナ海へ帰投したが、情報収集艦は太平洋へ航行し、補給艦と共に帰投したミサイル駆逐艦は翌日再び日本海へ航行した。日本海に航行して以降の活動状況は不明であり、露との共同訓練に関する報道も確認されない。

補給艦が中国国内の基地へ戻る必要があったため、ミサイル駆逐艦が随伴した可能性もあり、今後補給艦がまだ日本海で活動しているミサイル駆逐艦 3 隻と合流し訓練を継続するのか、今後の動向に注目する。

### ○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向

4 月 18 日、東部戦区報道官は、「4 月 18 日、東部戦区は東シナ海の関連海域において、海空兵力による統合戦備パトロールを実施した。」と公表したが、4 月は防衛省発表による特異な活動は確認されなかった。

## （３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

### ○　日本「新型軍国主義」の現実的脅威を警戒　解放軍報対日論文シリーズ２（4/8～）

①　日本国家情報メカニズム強化の裏心[19]　馬梓耀 呂耀東　中国社会科学院大学　4/8

②　日本の南西シフトの裏心[20]　徐永智　中国現代国際関係研究院　4/13

③　宇宙とサイバーの軍事利用の進展は日本の再軍備化の野心の現れ[21]　孫文竹　中国国際問題研究院　4/14

④　防衛産業と右翼政治家の結託[22]　趙雅楠　陳岳　軍事科学院　4/15

⑤　核保有の関門突破は、永久に破滅への道[23]　項昊宇　中国国際問題研究院　4/20

日本は、核兵器を保有しない国の中で唯一、完全な核燃料サイクルシステムを有し、ウラン濃縮、使用済み燃料再処理、核物質精製等の重要な核能力を備えている。国際原子力機関の査察では、日本国内外の分離プルトニウム総量は 44.4 トンであり、理論上、数千発の核弾頭を製造可能だ。

⑥　虚偽の歴史教科書で軍事拡張の本質を隠すことはできない[24]　張梅　中国社会科学院文化発展促進センター　4/21

⑦　日本の武器輸出緩和は必ず報いを受ける[25]　孫菲　4/26

⑧　域外勢力と結託、企図は白日の下へ[26]　盧昊　中国社会科学院日本研究所　4/28

⑨　専守防衛を突破し、攻撃的戦力を増強[27]　朱暁琦　中国人民大学国際関係学院　4/30

### ○　海自護衛艦「ちょうかい」が米で改装終了[28]　解放軍報 20260409

「ちょうかい」は改装後、射程 2000km のトマホーク巡航ミサイルを発射可能になり、戦後初の長距離打撃能力の保持となる。「新型軍国主義」は現実的な脅威だ。

### ○　日比軍事協力は地域情勢を悪化させる[29]　徐永智　中国現代国際関係研究院

解放軍報 20260409

陸上自衛隊の米比共同演習への参加は、第２次大戦以降初の比本土への正式な部隊派遣となり、両国の安保協力が大幅に強化された指標となる。国際社会は強く警戒すべきである。

### ○　国防部定例記者会見（4 月 9 日）[30]

◇　日本の敵基地攻撃能力を有する長距離ミサイル配備について

日本の「新型軍国主義」の勢いは憂慮すべきもので、この「邪悪な虎」を野に放てば、四方に害を及ぼし、日本国民をも破滅の淵に突き落とすことになることは必至であり、国際社会は、強く警戒しなければならない。

### ○　日本の所謂「太平洋防衛強化」計画の裏心[31]　項昊宇　中国国際問題研究院　解放軍報 20260416

遠海島嶼への施設構築は巨額の費用がかかり、日本国民を犠牲にしており、民間団体の抗議が起きるであろう。また、硫黄島は活火山地帯であり、インフラの被害や劣悪な自然環境から常駐のコストは極めて高い。更に悪質なのはまだ大量の遺骨が残されており、軍事施設の拡張は御遺族との協議が必須である。

○　日本が殺傷性武器輸出の緩和を企図[32]　解放軍報 20260416

日本の武器輸出に関する決定が現在では主に首相と内閣によって主導されており、国会は事後通知を待つことしかできず、事前審査や承認権限を持たず、武器輸出に対する「ブレーキ」としての役割を果たせていない。

○　国防部定例記者会見（4 月 17 日）[33]

◇　日本の防衛予算や防衛装備移転三原則の改正等について

これらの事象は、日本の右翼勢力が安全保障政策を攻撃的かつ拡張主義的な方向へと加速させていることを示しており、カイロ宣言、ポツダム宣言、降伏文書等の国際的に法的効力を有する文書や日本の憲法・国内規範等への重大な違反行為であり、戦後の国際秩序、地域平和と安定に対する深刻な脅威である。

○　海自艦艇の台湾海峡通過に関する国防部報道官のコメント[34]

護衛艦「いかづち」の台湾海峡を通過に対し、東部戦区は海空兵力により全行程を監視し、統制した。我々は既に日本に対し厳正な申し入れを行い、強く抗議した。日本の行動は意図的な挑発であり、過ちを繰り返す、その意図は何なのか。高市首相は台湾に関して誤った発言をし、未だ訂正しない。自衛隊艦艇は台湾海峡で騒乱を起こし、「台湾独立」分離主義勢力に誤ったシグナルを送っている。これは中国人民の憤りをさらに高め、日本の火遊びのような挑発に反撃する決意を強めるだけである。

○　騒動を引き起こし、間違いを重ねれば、日本を奈落の底に落とすだけ[35]　鈞声

解放軍報 20260419

日本護衛艦の台湾海峡通過は、中国人民の感情を大いに傷つけ、日本の「新型軍国主義」への警戒感を強め、中国の反撃の決心を更に強固にするだけだ

○　自衛隊の攻撃的改編は永遠に続く災い[36]　華丹　曾卓寒　陸軍工程大学　解放軍報 20260420

自衛隊の大規模な改編は、単なる装備更新や編成替えでなく、日本の再軍備化の歯止めが効かなくなったことの表れである。

○　日本の再軍備化野心を止めよ[37]　解放軍報 20260420

全ての平和を愛する国家が手を取り、邪悪な野心を止め、第 2 次世界大戦の成果と得難い平和と安定を擁護しよう。

○　海自第 2 水上作戦群を見通す[38]　解放軍報 20260420

新設された第 2 水上作戦群は、軽空母打撃群のプロトタイプであり、従来の対潜水艦戦のみを目的とするものではなく、高強度海上作戦への移行を示すものである。

また、広島県呉海軍基地を母港とし、日本の南西海域での軍事介入における第一線主力部隊であり、強い攻撃的な意味を持つ。

○　罪の否定派再犯を意味する[39]　王敏　解放軍報 20260422

高市首相の靖国神社への真榊奉納は偶然の出来事ではなく、右翼政治家の悪意のある行動であり、示威型軍国主義の幽霊による公然たる挑発である。

○　与那国に SAM 部隊配備[40]　解放軍報 20260423

与那国は台湾からわずか約 110 キロメートルしか離れておらず、台湾海峡監視のための前哨基地である。03 式中距離防空ミサイルの配備は地域における制空権の確保を目的としている。

○　日本の「武器外交」は地域の平和の禍に[41]　姚芸彤　肖鉄峰　解放軍報 20260429

最近の日豪防衛協力強化の動向にみるように、日本は「武器外交」により関係国の軍事力と結合した遠洋展開を追求している。

○　歴史は覆せず、罪は必ず清算される[42]　尹暁宇　解放軍報 20260430

極東軍事裁判 80 周年の本年、日本右翼勢力は公然とこの歴史的な定説を否定し、軍国主義の幽霊を復活させようと企んでいる。

○　日豪が新型艦艇の共同開発に合意[43]　解放軍報 20260430

日本は豪との共同開発を名目に戦後初の主要艦艇の輸出を行う、戦争の輸出にむけて動き出した。

○　国防部定例記者会見（4 月 30 日）[44]

◇　日本の外交青書について

中国を口実に違法行為を隠蔽するのは、日本の常套手段であり、いわゆる軍用機の「異常接近」や「レーダー照射」は、すべて日本自身が捏造した作り話に過ぎない。先頃、自衛隊艦艇の台湾海峡通過といった挑発行為やナイフを所持した現役自衛官の在日大使館侵入事件董な悪質な事案も発生している。誰がアジアと世界への真の挑戦者・脅威かを歴史と現実が既に示している。

◇　自衛隊のバリカタン参加について

第 2 次大戦間、日本の侵略者は比でマニラ大虐殺や慰安婦強制連行等の数々の罪を犯した。関係国は歴史の悲痛な教訓を忘れてはならず、しっかり民衆の声を聴き、分裂と対立を生じさせず、共に日本の新型軍国主義を阻止してアジア太平洋地域の平和と安定を擁護せねばならない。

◇　自衛隊の階級名称変更や国家情報会議等について

旧軍の用語使用や、国家情報機構設立は悪名高き「特高」を連想させるもので、アジアの国々の人々の感情を酷く傷つけるものである。

【コメント】

日本関連の記事は、4月は28件と、3月の12件から大幅に増加した。

海自艦艇が台湾海峡を通過した17日以降が19件であり、更に、軍の意見を代表する「鈞声」による通過への批判記事を掲載していることから、これに強く反発していることがわかる。

台湾有事への自衛隊の介入を大いに警戒し、阻止すべく認知戦を展開している。

## 5　国境地域動向

### （1）南シナ海

#### ○　全般

◇　4 月 13 日、南部戦区報道官は、「4 月 9～12 日、南部戦区海軍は、南シナ海海域において定例パトロールを実施した」と公表[45]。

◇　4 月 28 日、南部戦区報道官は、「4 月 28 日、南部戦区海軍は、南シナ海海域において定例パトロールを実施した」と公表[46]。

#### ○　スカボロー礁

◇　4 月 30 日、南部戦区は、「4 月 30 日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁領海領空及び周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施した。」と公表[47]。

◇　4 月 30 日、中国海警局は、「4 月 30 日、海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した。」と公表[48]。

#### ○　南部戦区海軍の比ルソン島東方海域での演習[49]

4 月 24 日、南部戦区は「先頃、南部戦区の 107 編隊が比ルソン島東方海域で演習を実施し、実弾射撃・海空協同・快速機動・航行補給等の演練し、一体化統合作戦能力を検証した。これは現在の地域情勢に対応した必要な行動である」と公表。

107（レンハイ級「遵義」）編隊

甲板から離陸する無人機

（出典：南部戦区微信20260424）

【コメント】

4 月 9～12 日、南シナ海では本年 2 回目の米豪比共同演習が実施。更に 4 月 20 日から 5 月 8 日にかけ比で米比主催多国間共同訓練バリカタン 26 が実施され、自衛隊からも約 1400 名が参加し、日比円滑化協定（ＲＡＡ）を適用し、実動訓練を行う。

中国はこれらの演習に併せ、パトロールや演習を実施しており、空母遼寧も 20 日に台湾海峡を通過し、南シナ海へ航行した。

## （２）黄海・東シナ海

### ○　ニュージーランド空軍への対応

中国国防部報道官は 4 月 17 日の定例記者会見において、「先頃、ニュージーランド空軍の P-8A 対戦哨戒機 1 機が、中国の警告を顧みず、黄海・東シナ海の海空域で頻繁に接近偵察による嫌がらせを行った。中国軍はプロフェッショナルな対応を実施し、ニュージーランド側に厳正に申し入れを行った」と公表[50]。

これに対し、ニュージーランド国防相は 18 日、「ニュージーランドは黄海・東シナ海で、北朝鮮の国連制裁回避行動の監視を実施している。ニュージーランド軍の乗組員はプロフェッショナルな対応で任務を遂行し、航跡や入手可能な全情報を精査したが、民間航空を妨害したというデータはない」と反論した[51]。

## 6　軍事交流

### （1） 共同訓練

○　中・パキスタン海軍共同演習「海洋衛士-４」[52]

3 月 25 日～4 月 1 日、アラビア海北部で中・パキスタン海軍共同演習「海洋衛士-４」が実施。中国からは「大慶」（筆者注：ジャンカイ 2 級フリゲート、アデン湾第 48 次護衛編隊）が参加。

演習はカラチ港での相互艦艇訪問等と海上演習の 2 段階で実施され、演習では両国は編隊運動、ヘリコプターの着艦、共同パトロール等を演練した。

### （2） 軍事交流

○　第 15 回中仏高級幹部安全保障政策セミナー[53]

3 月 30 日～4 月 3 日、第 15 回中仏高級幹部安全保障政策セミナーがフランスで開催。国防政策や安保情勢、両軍関係等について討議し、今後も両国の信頼醸成や実務協力等の強化を推進。

○　露艦艇の寄港[54]

4 月 15 日、露太平洋艦隊のフリゲート艦 2 隻と燃料補給船 1 隻（筆者注：ステレグシチー級フリゲート「３３３」及び「３４３」及びドゥブナ級補給艦）からなる編隊が、広東省湛江に寄港し、5 日間の友好訪問を開始した。

○　「和諧使命-2025」の終了[55]

4 月 26 日、中国海軍の病院船「シルクロードの箱舟」が「和諧使命-2025」を終了し、海南省三亜の軍港に入港した。

今次任務は 234 日、総航行距離は約 3.6 万㌔で、2010 年以降 11 回目の「和諧使命」であり、同種の任務としては最長となった。

「シルクロードの箱舟」は 2025 年 9 月 5 日に福建省泉州を出港し、ナウル、フィジー、トンガ、ジャマイカ、バルバドス、パプアニューギニアを訪問して医療支援を提供し、ブラジルとチリでは医学交流を行い、ニカラグアとウルグアイに技術寄港した。

今回の任務期間中、医療隊は現地住民、華僑華人、中国機関の職員に対し、無料の医療支援を提供し、外来診療延べ 26,324 件、外科手術 2,724 件、検査延べ 17,273 件、入院治療 136 件を実施した。

また、フィジー、トンガ、ブラジルの各海軍と海上共同演習を実施した。

○　董軍国防相の外遊

◇　中カンボジア外交・防衛 2+2[56]

4 月 22 日、中カンボジア外交・防衛 2+2 戦略対話メカニズムの初会合がプノンペンで開催。王毅外相と董軍国防相、カンボジアのプラック・ソホン副首相兼外相とティア・セイハー副首相兼国防相が共同議長を務めた。両国は、一方的ないじめと強権政治に反対し、世界の自由貿易と国際的な公平性・正義を擁護することで一致した。

◇　中露国防相会談[57]

4 月 24 日、董軍国防相は露を訪問し、ベロウソフ露国防相と会談した。双方は戦略的意思疎通や各分野における実務協力を継続的に強化し、共に世界の正義と国際秩序を擁護し、両国関係の更なる質的発展のために新たな取り組みを目指すことで合意した。

◇　中キルギス国防相会談

4 月 27 日、董軍国防相はキルギスを訪問し、ムカンベトフ・キルギス国防省と会談した。双方は、両軍の協力強化の継続で合意した[58]。

また董軍国防相は同日、カシマリエフ・キルギス首相とも会見した[59]。

◇　上海協力機構国防相会議[60]

4 月 28 日、董軍国防相はキルギスで開催された上海協力機構国防相会議に出席し、「上海協力機構は、多国間主義の模範として、国際秩序を堅持し、共に公平と正義を擁護し、安全保障ガバナンスの改善に協力すべき」と主張した。

またキルギスにおいて董国防相は、露・カザフスタン・イラン・パキスタン・ベラルーシ等の代表と会談を行った。

【コメント】

海軍病院船が 8 か月の医療支援任務を終了し帰港した。今回は、太平洋島嶼国・南米を中心とした任務であり、グローバルサウスへの影響力強化を図った。

また、カンボジアとの 2+2 や上海協力機構を通じて、名指しはしないものの「強権政治に反対」等のナラティブを用い、米国を牽制した。

【参考文献】

1　中国軍網 20260409
http://www.81.cn/jwtt/16453931.html
2　WSJ20260406
https://www.wsj.com/world/china/china-creates-new-aviation-mystery-with-offshore-warning-zones-128b1ce5
3　国防部網 20260430
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16458377.html
4　東部戦区微信 20260417
https://mp.weixin.qq.com/s/UeGcnSTgYMKKdMiKaNr-hA
5　台湾国防部 X20260420
https://x.com/MoNDefense
6　管碧玲 Facebook　20260406
https://www.facebook.com/kuanbiling/
7　海洋委員会海巡署 20260421
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=167618&ctNode=650&mp=999
8　海洋委員会海巡署 20260424
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=167669&ctNode=650&mp=999
9 中国海警局 20260424
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202604/t20260424_3067.html
10　国防部網 20260418
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16455879.html
11　中国海警局 20260428
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202604/t20260428_3075.html
12　NHK ONE20260418
https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10015102691000
13　NHK ONE20260429
https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10015111201000
14　中国海警局 20260417
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202604/t20260417_3059.html
15　海洋委員会海巡署 20260418
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=167600&ctNode=650&mp=999
16　TBS News Dig 20260416
https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rbc/2605368?display=1
17　国防部網 20260419
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16455991.html
18　東部戦区微信 20260422
https://mp.weixin.qq.com/s/Bb5_QmeWBhivro-l9fNt1g
19　解放軍報 20260408
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260408/c5122ffda294da41d7c7a66dd94b8464.pdf

20　解放軍報 20260413
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260413/74df546195f4902ae13fafeaab697e50.pdf
21　解放軍報 20260414
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260414/54f27e97a3c61b4645d18581fb581898.pdf
22　解放軍報 20260415
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260415/b92154612d5365613e33d98375b54eb9.pdf
23　解放軍報 20260420
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260420/36e618cf2093a9853807016ff35baaf7.pdf
24　解放軍報 20260421
http://www.81.cn/szb_223187/szblb/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-04-21&paperNumber=04
25　解放軍報 20260426
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260426/eefc2f7dc95b1bbb5590b7bee78f3c64.pdf
26　解放軍報 20260428
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260428/ccaeed314e28896e448c1b4a5b4ff690.pdf
27　解放軍報 20260430
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260430/fa1991fb8563c9406da348287883c6b8.pdf
28・29　解放軍報 20260409
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260409/f319eb717b87cb2e1cd367cce00ec583.pdf
30　国防部網 20260409
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16454095.html
31　解放軍報 20260416
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260416/58b750e1de8ae618136bbf84e335b416.pdf
32　解放軍報 20260416
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260416/58b750e1de8ae618136bbf84e335b416.pdf
33　国防部網 20260417
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16455626.html
34　国防部網 20260417
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16455741.html
35　解放軍報 20260419
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260419/4b696c35e9fff74c8b63ba4a7addab46.pdf
36・37・38　解放軍報 20260420
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260420/0ae0b7d91e48e82d18945ff9675cc2ea.pdf
39　解放軍報 20260422
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260422/7df724ae242216c8b8600e04aec456a7.pdf
40　解放軍報 20260423
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260423/48abffcf88cba510fda520924dcb0491.pdf
41　解放軍報 20260429
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260429/8462f364f7907c9742a62e7478956939.pdf
42　解放軍報 20260430

https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260430/9c59b5dc152c3b21f393dca02b374962.pdf
43　解放軍報 20260430
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260430/9c59b5dc152c3b21f393dca02b374962.pdf
44 国防部網 20260430
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16458377.html
45　中国軍網 20260413
http://www.81.cn/yw_208727/16454808.html
46　南部戦区微信 20260428
https://mp.weixin.qq.com/s/FRf2X8mGCg8n0S0O6qhZdA
47　中国軍網 20260430
http://www.81.cn/yw_208727/16458327.html
48　中国海警局 20260430
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202604/t20260430_3081.html
49　南部戦区微信
https://mp.weixin.qq.com/s/D5H7xWKvlgoZkS28KnxoRw
50　国防部網 20260417
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16455626.html
51　NZDF　20260418
https://www.nzdf.mil.nz/media-centre/news/nzdf-statement-in-response-to-chinas-claims-regarding-p-8a-aircraft-flight/
52　中国軍網 20260405
http://www.81.cn/yw_208727/16453363.html
53　国防部網 20260409
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16454095.html
54　新華社 20260415
https://www.news.cn/world/20260415/f6f80260dfc244b78b7ae288fcbac672/c.html
55　新華社 20260426
https://www.news.cn/20260426/8d3716b84f4c4c65aca0760b3adda4af/c.html
56　国防部網 20260422
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16456690.html
57　国防部網 20260424
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16457081.html
58　国防部網 20260427
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16457634.html
59　国防部網 20260427
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16457788.html
60　国防網 20260428
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16458028.html

中国軍事動向月報　２０２６年４月

２０２６年５月８日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093
東京都千代田区平河町２－６－１
平河町ビル５階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。